



資源と環境の教育を考える会『エコが見える学校』
関東学院大学非常勤講師
三信化工株式会社

海老原誠治

えびはら せいじ

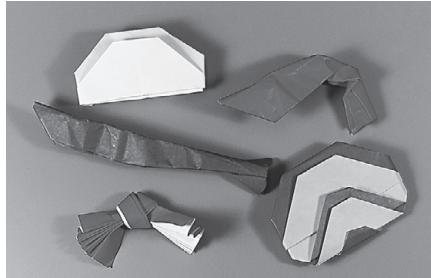
佐賀大学物理学科卒業、佐賀県立有田窯業大学校・常勤講師を経る。

美・しつらい・お節・図工

お正月の定番といえば、お節でしょうか。お節やハレの日に限らず、料理の盛り付け・器使い・しつらいなどは、美しい物です。以前も書きましたが、このような和食の見た目の美は、図工としっかりとした接点を持ちます。学習指導要領の解説では、「国や地域、文化、時代、風土、作者の個性などが関わって創造され」た美、「例えば、食器、家具、衣服、用具、パッケージ、ポスター、伝統的な工芸品、建物など、児童を取り巻く生活の中にある様々な造形」がそれに当たります。しばしば図工の工作で作るお弁当などがありますが、その背景となっています。

代表的な文化・行事としつらいであるお節に焦点を絞り、図工教材を考え、組み立て式のお重（一の重のみですが…）を作ってみました。ちなみに、Wordなどのソフトで「表」の幅を変え、表を塗りつぶすだけでデータは完成します。

▶お重を組み立てた様子



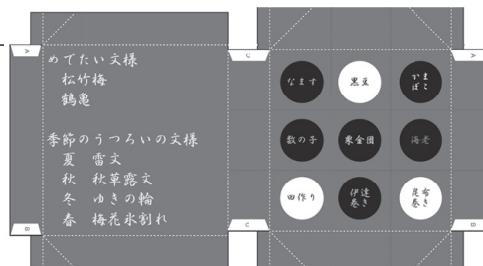
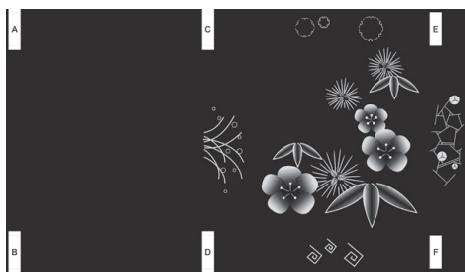
◀折り紙で作ったお節
(かまぼこ・海老・田作りになります。
伊達巻)

行事食を作る

行事食には、さまざまな願いが込められます。このお重をベースに、人の思いを確認しながら、図工の授業として折り紙や粘土などを使って料理を作り、盛り付けまで展開ができるのかと考えています。

ハレの料理に込められた思いは、社会科の「文化財や年中行事は地域の人々の願いが込められ受け継がれていること」や、家庭科の「日本の伝統的な生活」と接点があるかもしれません。1人で作っても良いのですが、グループワークで共創し作り上げ





折り図のデータは『いただきます.info』にて公開中
<http://itadakimasu.info>

ることもできそうです。また一人ひとり、それぞれの思いを込めお重の中身を考えてもらい、おもてなしをする疑似体験や、外側の印刷を白地にして、図柄を各自デザインしてもらうなどの展開もできそうです。現在、図工専科の教諭・栄養教諭の先生方と相談中です。

お節作りの疑似体験

ユネスコに登録された和食では、伝統行

事の事例としてまず、正月料理が上げられています。食育推進全国大会で、子どもたちに折り紙でお節を作ってもらいました。お重の中をいっぱいに埋めるのは時間も掛かり大変ですが、納得いくまでやってもらいました。しかし授業では時間確保が難しく、図や模型でのお節の紹介が限界かもしれません。まして実際の調理は難しいでしょう。なんとか図工と連携し、お節作りの疑似体験の場が見出せればと思います。

知りたい！ うつわと食のミニ知識

がいろめ

きぶし

蛙目粘土・木節粘土と瀬戸物

関東で育った私には、瀬戸物と焼き物の違いは、大学に入るまで正直、知りませんでした。私を基準にするのも何ですが、東日本において『瀬戸物』は、焼き物の代名詞になるほど器の顔として浸透しているのです。正確には愛知県瀬戸地区で生産される陶磁器であると知るのは、後のことです。

しかし名の通った瀬戸物、現代でも最大規模の産地といえますが「どんな物？」と聞かれても回答は困難です。平安時代には焼成が確認され、さまざまな歴史を重ね、製造される器も陶器から磁器まで多岐にわたり、語り尽くせません。

例えば『原色陶器大辞典』(加藤唐九郎編)の「有田焼」の項を引くと解説が3ページなのにに対し、「瀬戸焼」の項では10ページも割かれています。ただし、瀬戸物を語るのは難しくても、一大産業へ成り立つ理由は、比較的容易です。一言、地質です。

かつて数百万年前、伊勢湾は名古屋を丸ご

と覆い尽くし、三重から岐阜にまで掛かる巨大な湖「東海湖」があったといわれています。この湖底に、風化して微粒子となった岩石が時間をかけ沈殿した物が、粘りのある良質な粘土となりました。それが蛙目粘土と木節粘土です。

蛙目粘土は、硬く淡い粒の石英（ガラスの原料）を含み、水に浸すとカエルの目に似てることから名づけられ、木節粘土は、炭化した木片を含むことから名づけられます。これらの原料が広大な範囲にわたり産出することが、瀬戸を中心とした多岐にわたる陶磁器産業を育みます。



馬の目皿
特に瀬戸産の日用
食器で好まれた、
渦巻き文様